



③ 撫川八幡神社

旧撫川村の日蓮宗信徒の氏神様(中撫川551)



八幡神社の沿革



旧社格 村社

鎮座地 岡山市北区中撫川 551

氏子地域 中撫川、撫川

■由緒

往昔、吉備中山に大吉備津彦命鎮座後、十握剣を宝物として彼の社に納めた。寛喜年中(1229~1232)に彼の社が回禄(火事)の際、御剣をこの地に遷して奉斎した。御剣は彼の社に奉還後、御剣の縁に依って天照大御神須佐之男命を跡地に祭った。後、天照大御神を祀り下社とした。

寛永年間(1624~1644)に八幡神・春日神を勧請して八幡神社と改号した。

慶長の頃(1600年前後)再興し、元禄15年(1703)にも再興し現在に至っている。

■御祭神

品陀和氣命・天照大御神・天児屋根命

(岡山県神社庁の資料による)

八幡神社と須佐之男神社

両神社が並存している理由について

『きびのさと』No.71(昭和39年8月発行)には次のように書かれている。(須佐之男神社を上の宮、撫川八幡神社を下の宮と呼称している)

天和三年(1683)に撫川15000石を知行した初代領主戸川達富は、領内に国家鎮護の神が無かったので、八幡の大神を勧請して氏神として崇め奉った。(八幡山の八幡神社の分霊を祀り正八幡宮と尊称した。)

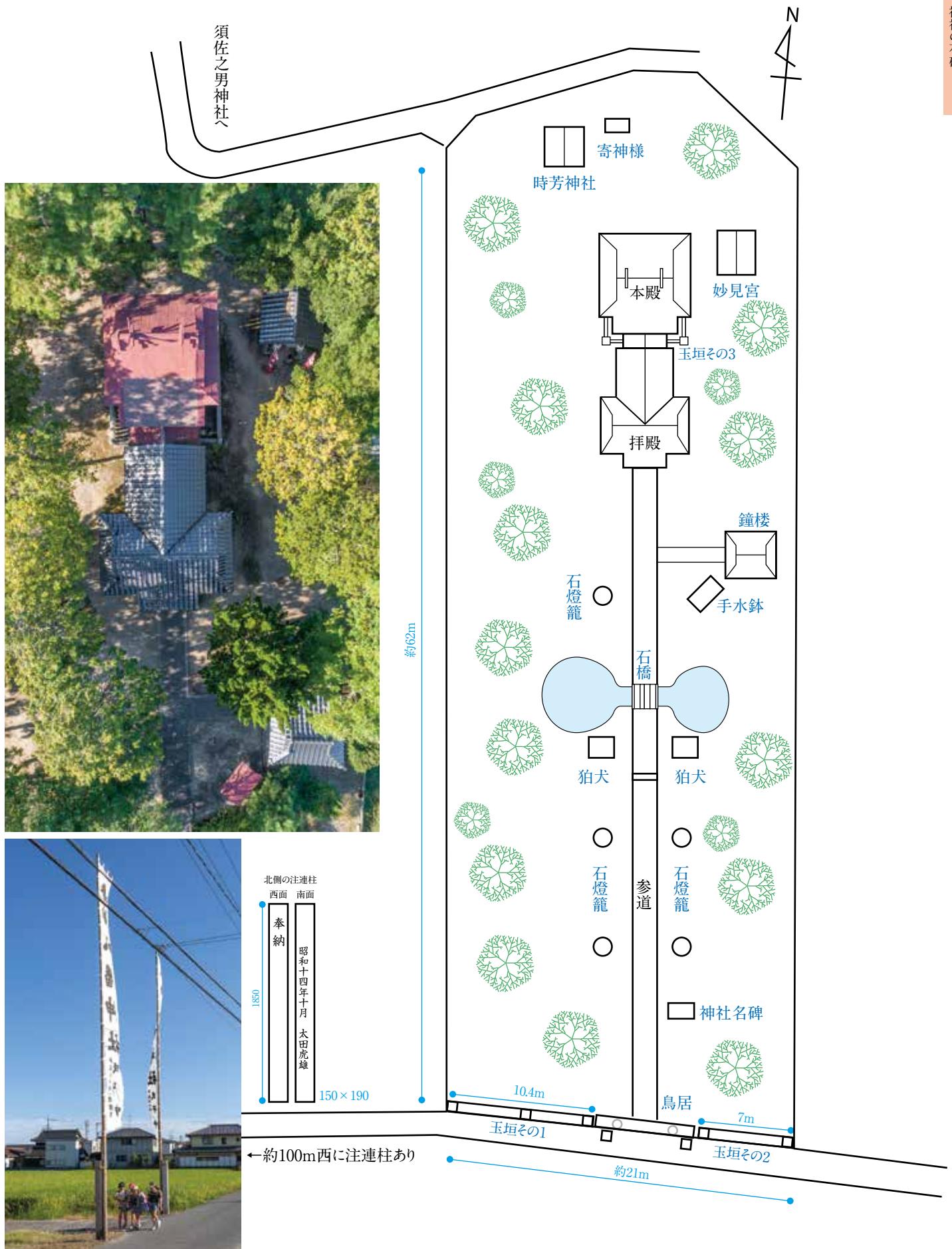
はるか昔の10世紀頃に、本地垂迹説に基づいて、神仏は一帯であるという習合から、神社は社僧を置いて社務を掌らしめた。この下の宮(八幡神社)は日蓮宗の法正山信城寺が別当として奉仕してきたのである。

創建については境内の燈籠に正徳四年(1715)の銘があるので、それ以前、戸川氏が転封してから30余年の間に建てられたことは確実である。

上の宮(須佐之男神社)も創建については何も文献が無く明確を欠くも、社前の燈籠の軸石に享保三年(1718)の年号が刻まれているので、下の宮よりも年代が浅いが大体同じぐらいに建てられたものと推定される。上の宮は真言宗の金華山觀音院が奉仕した関係上、宗教的に分れて神事が行われ、永い年月の間に日蓮信者と他の仏教徒とが自然に分離し、ついに今日見るような宗教別に二つの氏神が存在するという変則になったのである。

思うに創建当時戸川氏は、日蓮宗の大檀那にして権勢の上にあって他宗を排斥するかの態度(信仰者も勿論)を示した事がその原因となって、他宗を刺激した結果、「信仰の自由」の立場から宗派別に氏神を祭祀するようになった想像せられる。

※本地垂迹=日本古来の神祇(じんぎ) 信仰と仏教の仏菩薩(ぶつぼさつ)の信仰が同化する、いわゆる神仏習合に基づく考え方で、仏菩薩がこの世の人を救うために仮に姿を現すとし、仏菩薩を本地(眞実の身)、神を垂迹(仮の身)とする思想である。(世界大百科事典)



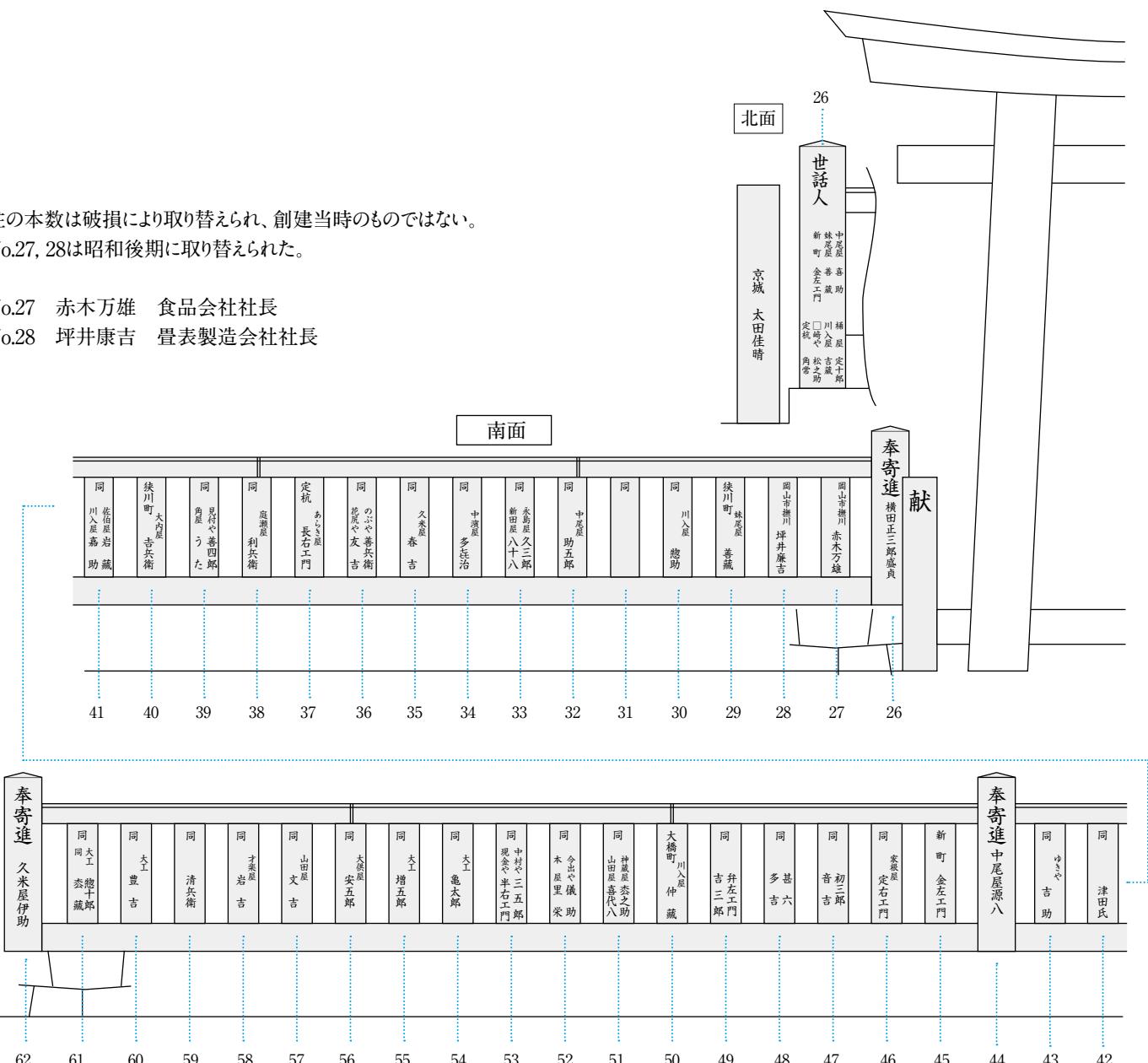


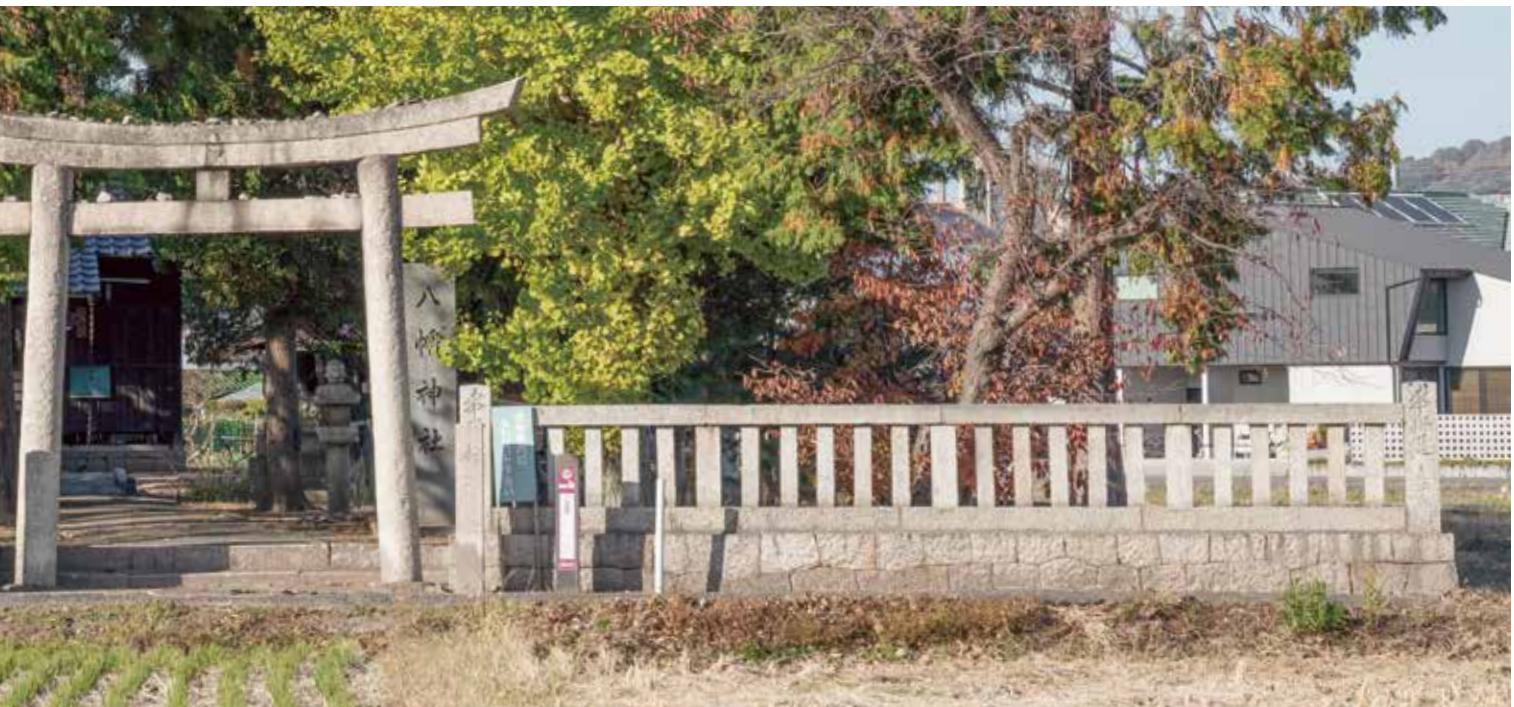
柱の本数は破損により取り替えられ、創建当時のものではない。

No.27, 28は昭和後期に取り替えられた。

No.27 赤木万雄 食品会社社長

No.28 坪井康吉 置表製造会社社長





鳥居

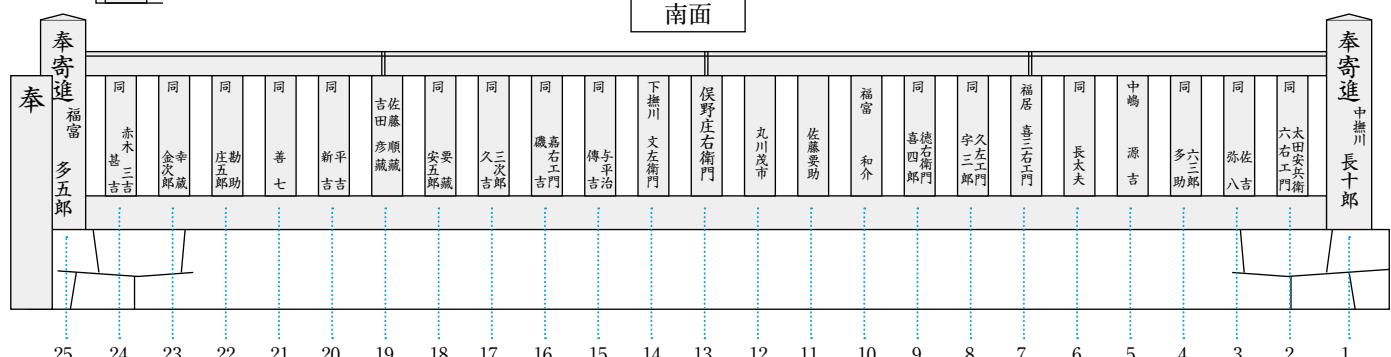
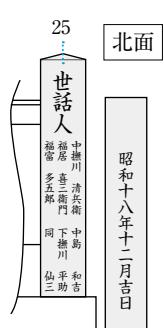
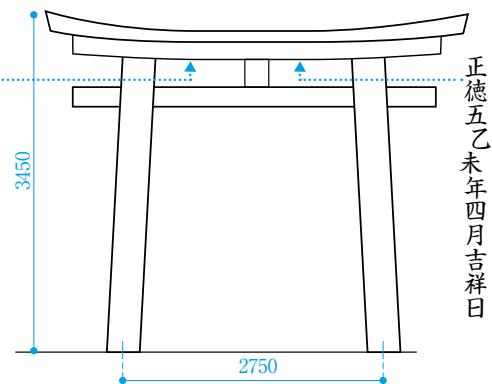
鳥居の銘は、笠木の下面に刻まれている。

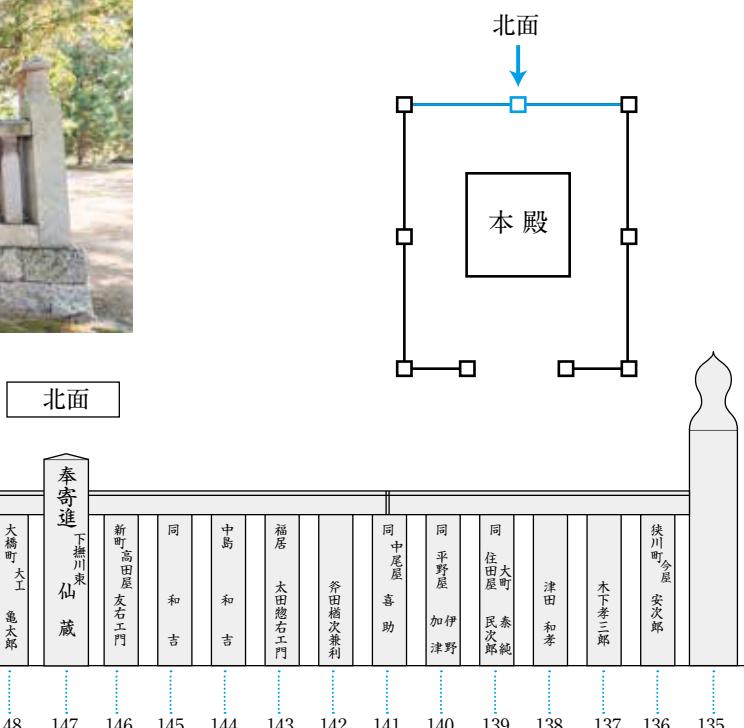
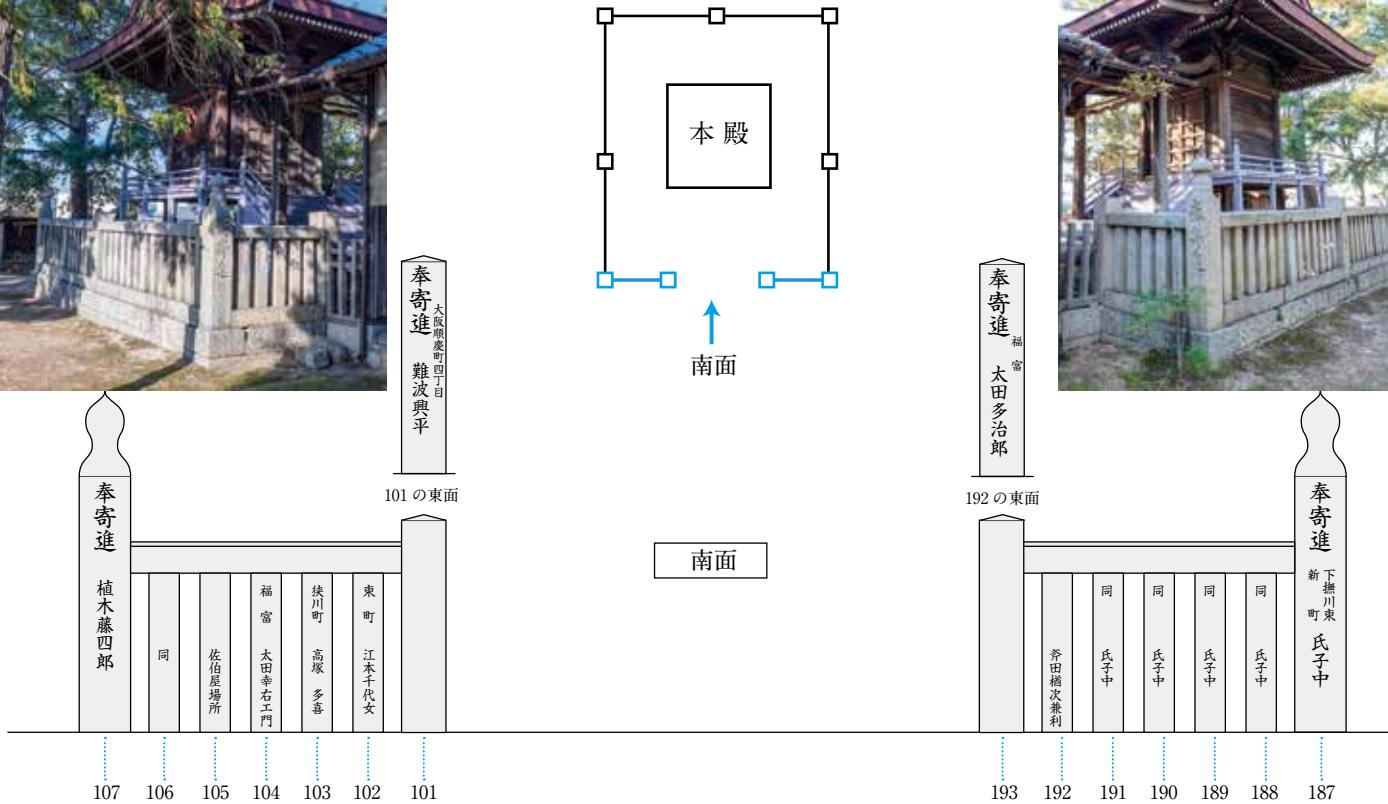
正徳5年(1715) 寛永→正徳→享保

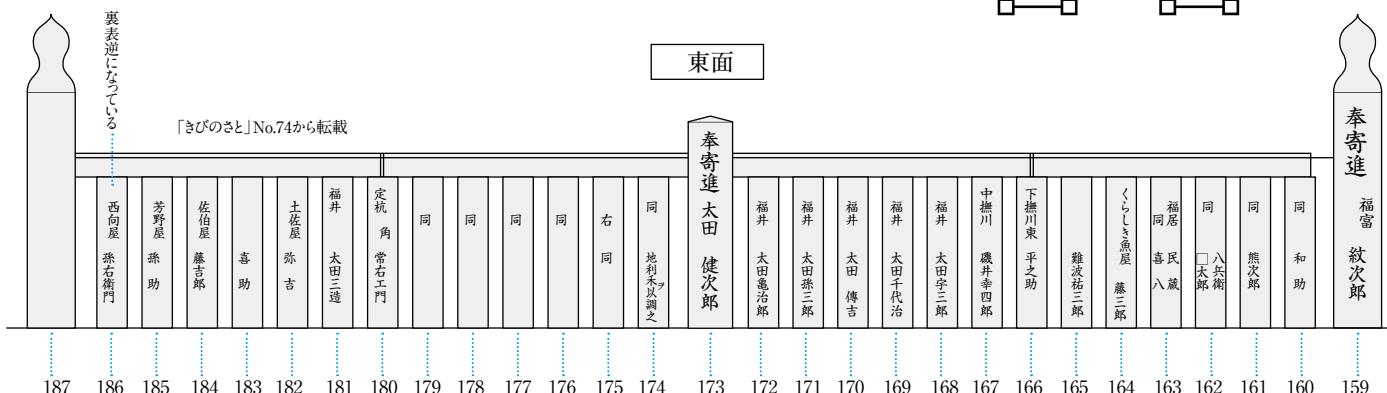
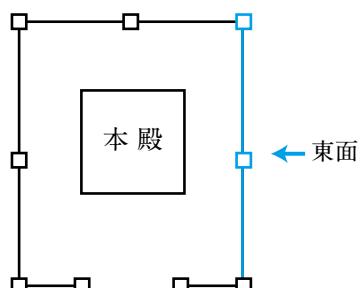
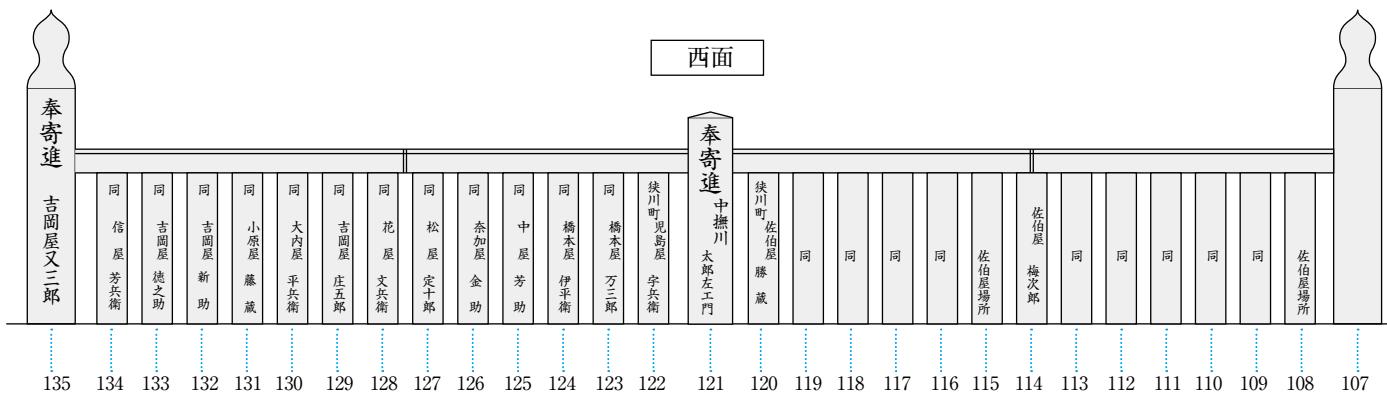
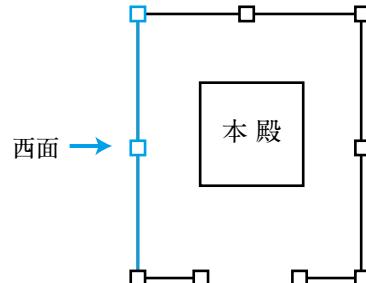
庭瀬藩主戸川安風の弟達富が、早世した安風の名跡を相続し撫川知行所の初代領主となっていた。玉垣も鳥居と同時代の築造ではないか?



4000







撫川八幡神社 玉垣碑銘一覧表

鳥居 玉垣

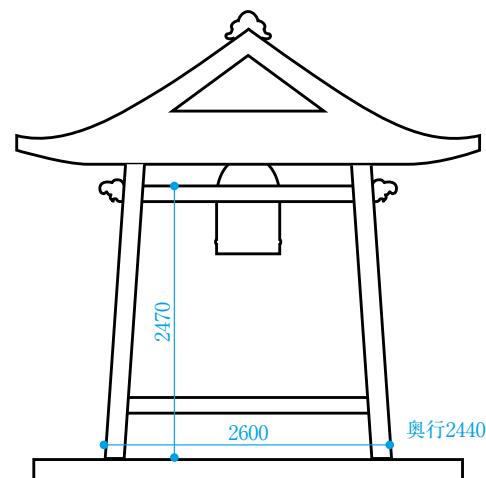
正徳五年(1715)

柱 No.	村名	役割	屋号	姓名	職業
1	中撫川			長十郎	
2	中撫川			太田安兵衛	
	下撫川			六右エ門	
3	中撫川			佐吉	
	中撫川			弥八	
4	中撫川			六三郎	
	中撫川			多助	
5	中嶋			源吉	
6	中嶋			長太夫	
7	福居			喜左右エ門	
8	福居			久左エ門	
	福井			宇三郎	
9	福居			徳右衛門	
	福居			喜四郎	
10	福富			和介	
11				佐藤要助	
12				丸川茂市	
13				俣野庄右衛門	
14	下撫川			文左衛門	
	下撫川			余平治	
15	下撫川			傳吉	
	下撫川			嘉右エ門	
16	下撫川			磯吉	
	下撫川			三次郎	
17	下撫川			久吉	
	下撫川			要蔵	
18	下撫川			安五郎	
	下撫川			佐藤順藏	
19	下撫川			吉田彦蔵	
	下撫川			平吉	
20	下撫川			新吉	
21	下撫川			善七	
22	下撫川			勘助	
23	下撫川			庄五郎	
	下撫川			幸蔵	
24	下撫川			金次郎	
	下撫川			赤木三吉	
	下撫川			甚吉	
	福富			多五郎	表面
	中撫川	世話人		清兵衛	裏面
	福居	世話人		喜三衛門	裏面
25		福富		多五郎	裏面
	中島	世話人		多五郎	裏面
	下撫川	世話人		和吉	裏面
	下撫川	世話人		平助	裏面
	下撫川	世話人		仙三	裏面
				横田正三郎	盛貞
		世話人	中尾屋	喜助	裏面
		世話人	妹尾屋	善蔵	裏面
26	新町	世話人		金左エ門	裏面
		世話人	桶屋	定十郎	裏面
		世話人	川入屋	吉蔵	裏面
		世話人	□□や	松之助	裏面
	定杭	世話人		角當	裏面
27	岡山市撫川			赤木万雄	前は丸川茂
28	岡山市撫川			坪井康吉	前は佐藤要助
29	狹川町			妹尾屋	善蔵
30	狹川町		川入屋	惣助	
31	狹川町		川入屋	惣助	
32	狹川町		中尾屋	助五郎	
33	狹川町		水島屋	久三郎	
34	狹川町		新田屋	八十八	
35	狹川町		中瀬屋	多兵治	
36	狹川町		久米屋	春吉	旅籠・料理屋
37	狹川町		のぶや	善兵衛	旅籠・料理屋
38	定杭		花尻や	友吉	旅籠・料理屋
39	定杭		あき屋	長右エ門	旅籠・料理屋
40	定杭		庭瀬屋	利兵衛	
41	定杭		見付や	善四郎	
42	定杭		角屋	うた	
43	定杭		吉兵衛	吉	
44	狹川町		佐伯屋	岩蔵	
45	新町		川入屋	嘉助	
46	新町			津田氏	
47	新町			ゆきや	吉助
48	新町			中尾屋	旅籠・料理屋
49	新町			源八	
50	大橋町		川入屋	金左エ門	
51	大橋町			家根屋	定右エ門
	大橋町				旅籠・料理屋
	大橋町				初三郎
	新町				音吉
52	新町				甚六
53	新町				多吉
54	新町				弁右エ門
55	新町				吉三郎
56	大橋町				吉
57	大橋町				仲蔵
58	大橋町				喜代八
59	大橋町				儀助
60	大橋町				旅籠・料理屋
61	大橋町				里榮
	大橋町				東屋?
62	大橋町				中村や
	大橋町				三五郎
	大橋町				旅籠・料理屋
	大橋町				現金や
	大橋町				半右エ門
	大橋町				旅籠・料理屋
	大橋町				大工
55	大橋町				亀太郎
56	大橋町				増五郎
57	大橋町				大供屋
58	大橋町				安五郎
59	大橋町				山田屋
60	大橋町				文吉
61	大橋町				才樂屋
62	大橋町				岩吉
	大橋町				清兵衛
	大橋町				豊吉
	大橋町				惣十郎
	大橋町				泰蔵
	大橋町				久米屋
	大橋町				伊助

本殿 玉垣

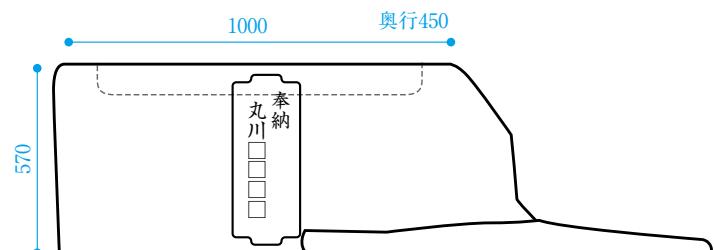
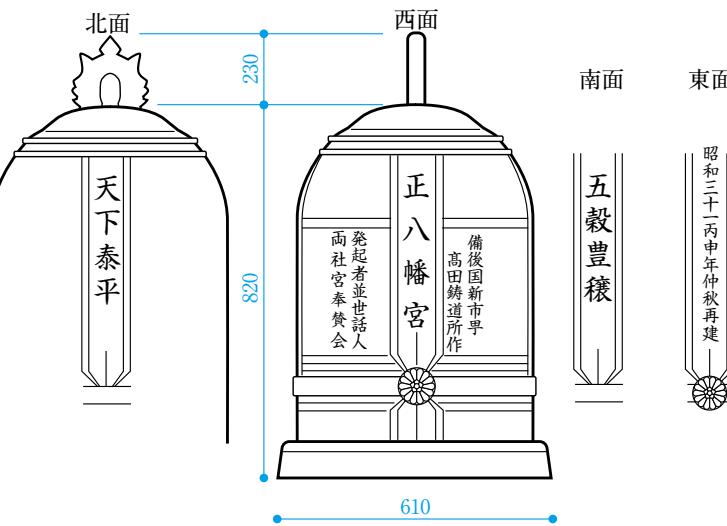
柱No.	村名	屋号	姓名	職業
101	大阪順慶町四丁目		難波興平	
102	東町		江本千代女	
103	狹川町		高塚多喜	
104	福富		太田幸右エ門	
105-106		佐伯屋場所		
107			植本 藤四郎	
108-113		佐伯屋場所		
114		佐伯屋	梅次郎	興業
115-119		佐伯屋場所		
120	狹川町	佐伯屋	勝藏	興業
121	中撫川		太郎左エ門	
122	狹川町	兎島屋	宇兵衛	
123	狹川町	橋本屋	万三郎	
124	狹川町	橋本屋	伊兵衛	
125	狹川町	中屋	芳助	
126	狹川町	奈加屋	金助	
127	狹川町	松屋	定十郎	
128	狹川町	花屋	文兵衛	
129	狹川町	吉岡屋	庄五郎	廻船業
130	狹川町	大内屋	平兵衛	
131	狹川町	小原屋	藤藏	
132	狹川町	吉岡屋	新助	廻船業
133	狹川町	吉岡屋	徳之助	廻船業
134	狹川町	信屋	芳兵衛	
135	狹川町	吉岡屋	又三郎	廻船業
136	狹川町	今屋	安次郎	
137			木下考三郎	
138			津田和孝	
139	狹川町	大町	泰次郎	
	狹川町	住田屋	民次郎	
140	狹川町	平野屋	伊野	
141	狹川町	平野屋	加津	
142		中尾屋	喜助	
143	福居		斧田惣次兼利	
144-145	中島		太田惣右エ門	
146	新町	高田屋	和吉	
147	下撫川東		友右エ門	
148	大橋町	大工	仙藏	
149	大橋町	玉屋	亀太郎	
	大橋町		伊勢次郎	
150	大橋町	六三郎		
	大橋町	庄屋内	琴吉	
	大橋町	鳥羽や内	小鶴	
151	大橋町	かご屋内	小光	旅籠・料理屋
	大橋町	伊世屋内	小金	旅籠・料理屋
152	大橋町	□□や内	八千代	
	大橋町	□□京屋内	小千重	
153	大橋町	川入屋	吉蔵	
	大橋町	庭瀬や内	小徳	旅籠・料理屋
154	大橋町	岡田や内	小寛	旅籠・料理屋
155	大橋町	見世	子供中	旅籠・料理屋
156	大橋町	大橋丸や	甚吉	旅籠・料理屋
157-158	定杭	きよ		
159	福富	魚屋内	小ひ文	旅籠・料理屋
160	福富	栗坂屋	世以	旅籠・料理屋
161	福富		紋次郎	
162	福富		和助	
163	福居		熊次郎	
164	福居		八兵衛	
165			喜八	
166	下撫川東		166	旅籠・料理屋
167	中撫川		磯井 幸四郎	
168	福井		太田宇三郎	
169	福井		太田千代治	
170	福井		太田傳吉	
171	福井		太田孫三郎	
172	福井		太田亀治郎	
173	福井		太田健次郎	
174-179			地利禾以調之	
180	定杭	角	常右エ門	
181	福井		太田三造	
182		土佐屋	弥吉	
183			喜助	
184		佐伯屋	藤吉郎	興業
185		芳野屋	孫助	
186		西向屋	孫右衛門	

鐘樓・釣鐘

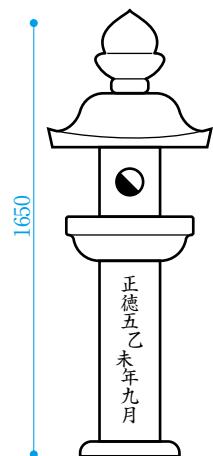
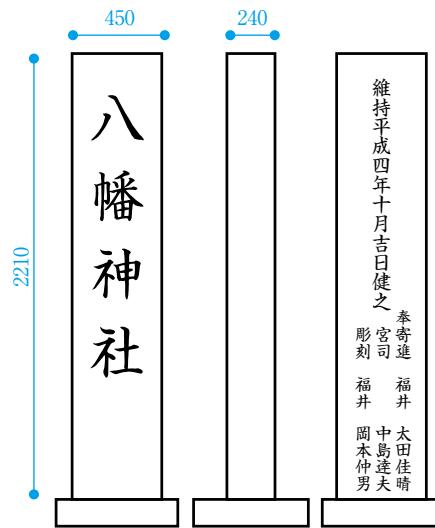


昭和31年(1956)11月4日再興奉獻
銘は「正八幡宮」

手水鉢



社名碑



石燈籠4基+(1基火袋欠損)
正徳5年(1715)

石燈籠



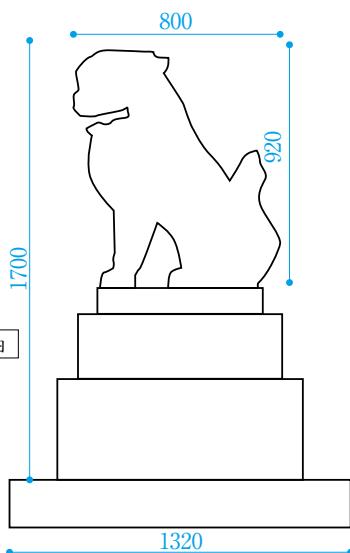
狛犬(吽)



狛犬(阿)

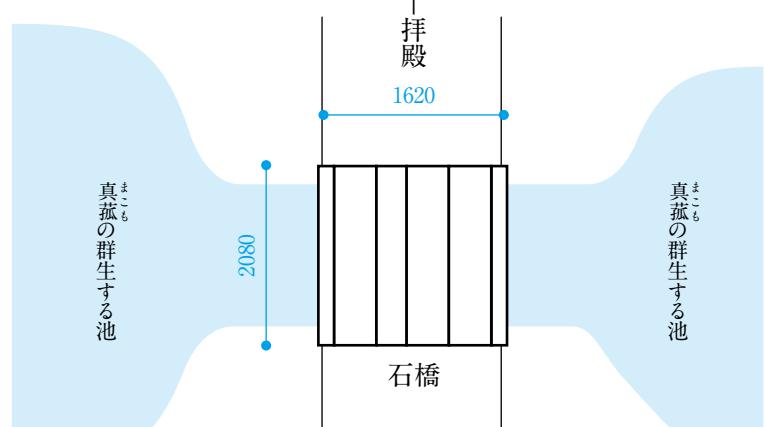


なごしはら 夏越祓い神事の茅の輪ぐり

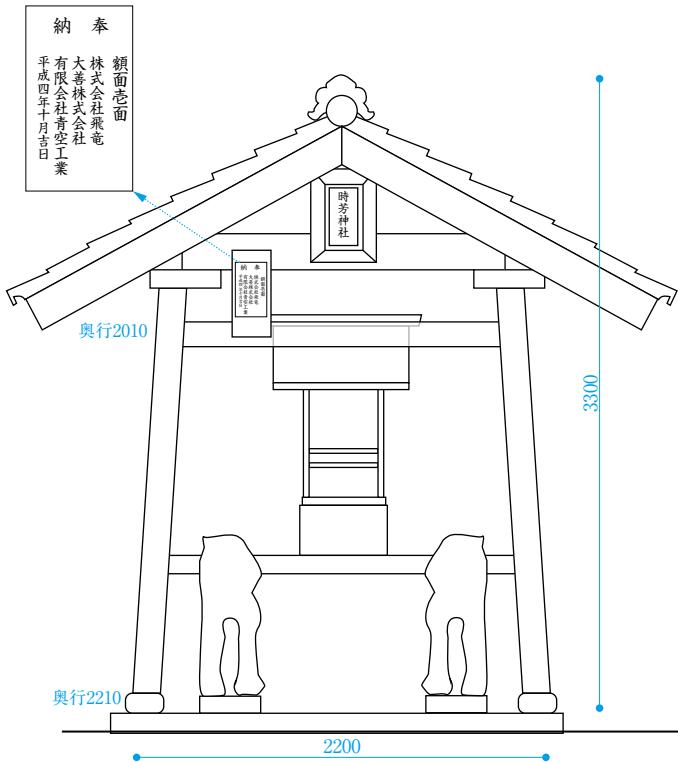


石橋・池

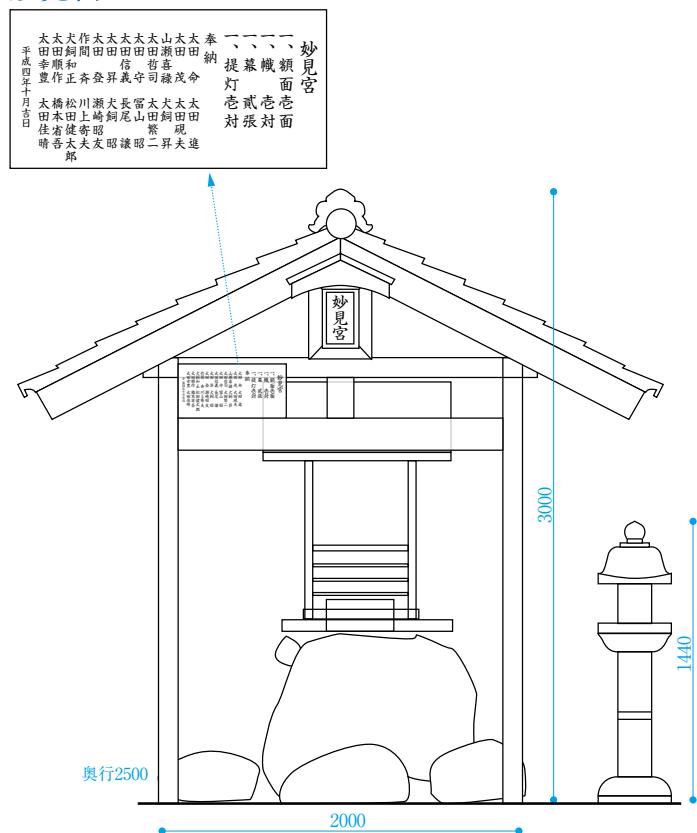
石橋の両側の池には真菰まごもが植えられており、毎年行われる神社(撫川八幡神社と須佐之男神社)の夏越祓いの神事の時に、茅の輪づくりの材料として使われている。

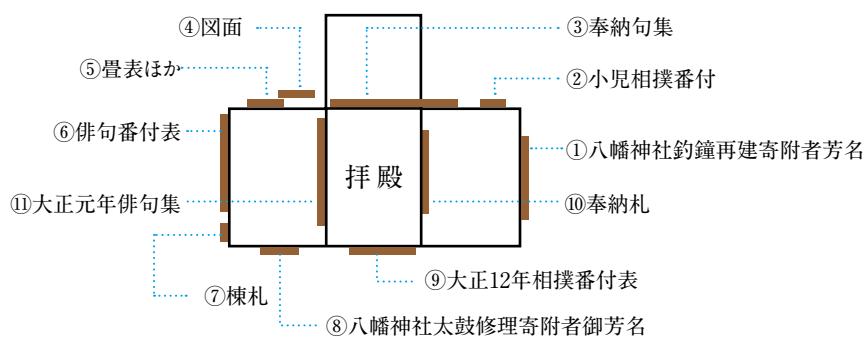


時芳神社・寄神様

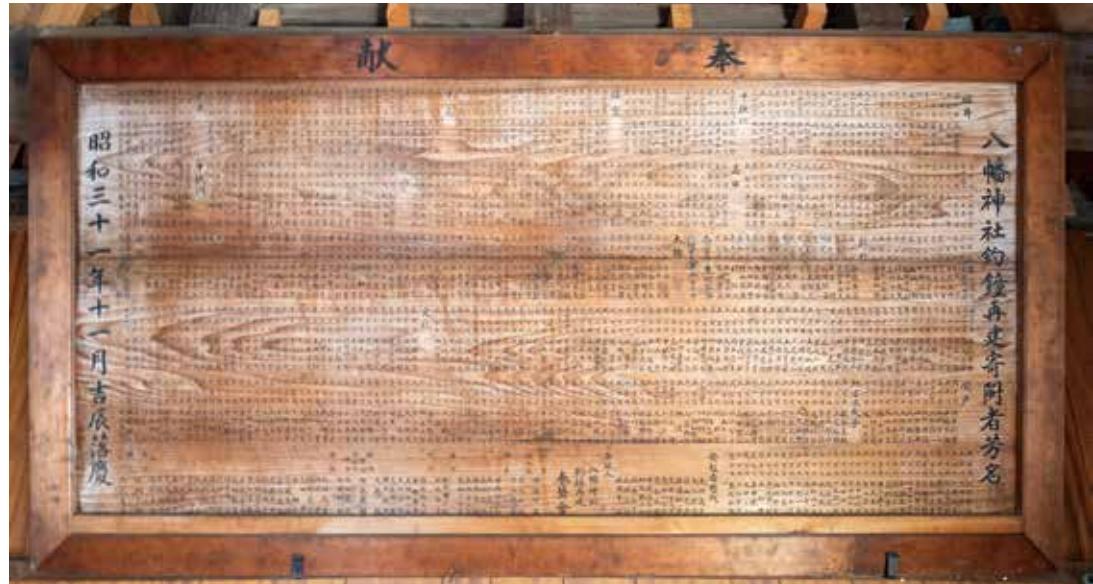


妙見宮





拝殿内の鴨居に、寄附者銘板や句集、相撲番付表などがある。奉納相撲や句会が盛んに行われていた様子が伺える。



①八幡神社釣鐘再建寄附者芳名
昭和31年11月
幅2080×高1070

②小兒相撲番付表
明治32年 幅620×高さ720
(須佐之男神社に同じ番付表がある)



④囲面 明治13庚辰年 幅910×高790



③奉納□二萬五千集
抜花壹百二拾五章
幅1720×高740



⑤寄附札
幅650×高さ490
疊表、厚疊、暖簾、吸上ポンプ、手洗い場
屋根、扁額修理、拝殿雨樋工事など。また
アメリカ在住東出身の人からの現金寄附
なども記されている。

撫川八幡神社 寄附者銘板

⑤俳句番付表 嘉永元戊申(1848)年 幅2000×高さ1070



⑨東京大相撲番付表 大正13年 幅800×高1300

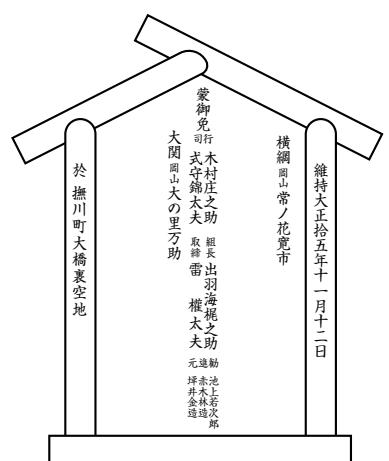


⑦棟札 幅310×高さ890



⑧八幡神社太鼓修理寄附者御芳名

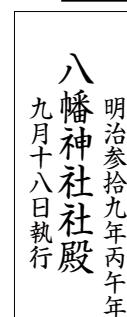
東京大相撲の興業が旧撫川町大橋裏(弥生座跡)で行なわれた際の番付表が奉納されている。



⑩奉納札 天保□□ 幅1320×高さ1000



⑪俳句集 大正元年 幅1900×高さ460



本殿棟札
幅240×高1514

本殿棟札
幅210×高745

